

平成 23 年度 第 2 回早稲田大学所沢校地 B 地区

自然環境評価委員会

会 議 次 第

日時：平成 24 年 2 月 28 日（火）

14 時 30 分～

場所：早稲田大学 大隈会館

N 棟 201 会議室

1. 開会・あいさつ

2. 議 事

(1) 前回評価委員会議事録の承認について

(2) モニタリング調査の結果と B 地区湿地再生全体計画の進め方について

(3) 役員改選について

(4) その他

3. 閉 会

平成 23 年度 第 2 回早稲田大学所沢校地 B 地区自然環境評価委員会

日時：平成 24 年 2 月 28 日（火）14 時 30 分～17 時 00 分

場所：早稲田大学 大隈会館 N棟 201 会議室

出席：A 委員長・B 委員・C 委員・D 委員・E 委員

欠席：K 委員

1. 開会

あいさつ

F 早稲田大学教務部自然環境調査室担当部長：

本日は、お忙しいところお集まり頂き、有難うございます。平成 23 年度 第 2 回早稲田大学所沢校地 B 地区自然環境評価委員会の開催にあたり、一言ご挨拶をさせていただきます。この評価委員会は 2000 年 10 月の設置以来、委員の先生方には様々な視点からご議論を頂いて参りました。所沢キャンパス B 地区の開発にあたりましては、これまでの経緯を経て、審議を頂き、これも一つの成果であると認識しております。

お陰様で、これまでの評価委員会の中で B 地区におきましては、豊かな生態系が保持されているということが報告され、委員の先生方からも評価を得ているものと認識しております。

本日の委員会では、議事にございますように、モニタリングの調査結果、湿地再生全体計画の進め方、役員改選ということで、ご議論ご審議のほど、どうぞ宜しくお願い致します。

○評価委員会事務局（G）：それでは、議事次第に従って A 委員長に以降の議事進行をお願いしたいと思います。宜しくお願いします。

●A 委員長：既に配布している前回の議事録で、何かご意見はありますか。事務局の方には、何かご意見等ありましたか。

○評価委員会事務局（G）：事前には、ご意見を頂いておりません。

●A 委員長：それでは、前回の議事録はご承認を頂いたということに致します。次に、モニタリング調査の結果と B 地区湿地再生全体計画の進め方について説明をお願いします。

- 評価委員会事務局（G）：それでは、今年度のモニタリング調査結果と前回の委員会において宿題となっていましたB地区湿地再生全体計画について、ご検討を頂ければと思います。最初に、モニタリング調査の結果では、毎回、B地区の自然環境に係わる環境の推移、動植物等の変化について報告していますが、湿地再生全体計画を考えるにあたっての取りまとめということにも関連して、最初に自然環境調査室のH先生からご報告頂き、その後、生態系保護協会の方でご説明させていただきます。
- 早稲田大学自然環境調査室（H）：説明省略
- 評価委員会事務局（G）：引き続き、水質モニタリングの結果について、早稲田大学環境保全センターからご報告をお願いします。
- 早稲田大学環境保全センター（I）：説明省略
- 評価委員会事務局（G）：引き続きとなりますが、埼玉県生態系保護協会が担当しております、湿地再生試験区と自然草地創出区等のモニタリングの結果、B地区湿地全体計画の方向性についてご報告させていただき、その後ご議論をお願いしたいと思います。
- （財）埼玉県生態系保護協会（J・G）：説明省略
- A 委員長：ありがとうございます。委員の方々、今までの説明でご意見のある方からご遠慮なく、ご発言を頂きたいのですが。
- B 委員：質問ですが、最後にGさんが説明されたB地区湿地再生全体ゾーニング図については、基本的には賛成ですが、「推移検討エリア（当面、ヨシの除草等を行う）」は、上部のヨシ群落を残すということで、現状では、「高茎湿地草地エリア」と「推移検討エリア」は同じように管理しているということですか。
- 早稲田大学自然環境調査室（H）：オオヨシキリが繁殖していたため、「推移検討エリア」は夏季も手を付けていません。
- B 委員：刈取り時期が異なるということですか。
- 早稲田大学自然環境調査室（H）：冬季は全体のヨシを刈り取り、夏季は「高茎湿地草地エリア」の部分を残しています。

- B 委員：昨年、下部のヨシ原を刈り取ってもオオヨシキリは 3 つがい繁殖したと思います。

- 早稲田大学自然環境調査室（H）：以前から約 3 つがいしか繁殖していません。また、ヨシ群落の存続については様々な意見があり、これらの意見を両立させるために、オオヨシキリの繁殖を確認した後に、ヨシ群落を半分残しています。

- B 委員：繁殖後に、刈り取ったのですか。

- 早稲田大学自然環境調査室（H）：繁殖後にヨシを刈り取りまして、その後、春先にヨシが繁茂し、オオヨシキリが営巣しています。

- A 委員長：そのような議論は、この計画地内での整備内容等が決定してからの方が良いのではないかと思います。

- B 委員：現状の整備について解らなかったので質問したのですが。もう一つは、一昨年の冬にカヤネズミが繁殖した場所は、ミヤマシラスゲが群生する「推移検討エリア」に多かったということでしょうか。

- 早稲田大学自然環境調査室（H）：ミヤマシラスゲ群落は、南側の林縁部にあります。

- B 委員：ミヤマシラスゲとヨシが繁茂している場所ですか。

- 早稲田大学自然環境調査室（H）：日当たりがあまり良くないため、ミヤマシラスゲが優占しています。

- B 委員：ミヤマシラスゲ群落で、カヤネズミの巣は多く確認されたということですか。

- 早稲田大学自然環境調査室（H）：そうです。そこは、日照が弱く、ヨシが優占することはありません。

- B 委員：わかりました。ありがとうございました。

- A 委員長：時間のこともありますので、この計画地における湿地再生の問題は、次回の委員会からの議題にして取り組んで頂きたいのですが、よろしいでしょうか。

○評価委員会事務局（G）：委員長、今後の参考のために感想だけでも各委員の皆様から頂きたいと思います。

●A 委員長：動物の分布繁栄には、生息環境の維持が必要であります。今年は湿地であったが、翌年、環境が変化すれば、湿地に生息する動物が減少します。確かに、常時、水分の豊富な湿地と年によって干上がる湿地もあり、そのような変化は仕方ないと思いますが、環境変化に応じて、ゾーニングを考えなければならないと思います。

●D 委員：湿地再生の全体ゾーニングに関しての感想ですが、基本的には湿性空間の開放水面からヨシ原まで、様々なステージがこの谷戸の中に常にあるという構造を維持していくこと、その中には、人の手をより入れた水田という構造も組み込んでいること、2008年～2010年の3年間の取り組みの中では、完全に水田である場所と、休耕地とした場所、放棄開始時から高茎草本の形成までの年数が必要なのかということでの違いが用意されるべきだと思います。そうすると、何パターンの水田が必要であるのか、という話しが整理されると思いました。3年間で用意したものがすべて水田として使われるのであれば、高茎草本への変遷の途中相が存在しないわけです。そうすると、それを組み込む必要があるのではないかと。それと、開放水面の整備が必要か否かについては、開放水面を必要とする生物が、この空間全体では、どの程度存在すべきなのかという議論が必要なのかと思います。それともうひとつは、特異的に分布する動植物に関して、一律に現在の維持管理手法では良くないかもしれないので、その対処についても個別に考える必要があると思いました。

●E 委員：所沢B地区の湿地は、所沢市内でも重要な湿地であります。湿地を維持することは、個人的に賛成です。しかし、新しい開放水面の造成に伴うメリット、デメリットの検討が必要であることと、その造成地は、以前に、大きな池が存在していたのか調べる必要もあると思います。それから、この湿地は、水田の時代、水田生態系を形成していたと考えられますが、それを早稲田大学が維持・管理することに関しては、非常に重要であると思うし、社会へのインパクトも強いと思います。また、一般市民や学生が参加することも重要であると思います。このように長い間、湿地を維持・管理しながら、保全している場所は少ないと思います。ここは、大学が発信していることで非常に重要であると思います。発信については、市民や学生が賛成し、湿地再生、水田づくりが重要であると、ただし、学生は、自然環境調査室だけではなく、大学付属の中高生にも参加の呼びかけてはいかがでしょうか。若い時期の自然体験は、人格の形成の上で重要であると思われるので、それを上手く取り入れることも良いと思います。

- B 委員：この委員会では、平成 14 年に湿地の管理環境方針を作成し、それからモニタリングをしながら整備し、生物多様性を保持してきたことは正しいと思います。今後も継続して、湿地の乾燥化を防ぎ、生物多様性の保全を行う作業の継続が必要であると思います。今回、新たなゾーニング案が提案されましたが、ヨシの刈り取り時期や方法については、さらに検討した方が良いでしょう。是非、このままこの取組みを継続してほしいと思います。先ほどの発言にもありましたが、学生と市民で棚田・水田の復田を行うというソフト面の取組みも評価したいと思います。

- C 委員：基本的には、3 人の先生の発言と同じであります。このゾーニングでは、木道を挟んで研究棟の真下に 2009 年に整備した水田があります。その縁と木道の間「推移検討エリア」があるのは、不都合な感じがします。個人的な考えとしては、木道を境に半分を整備するとかして、単純明快に区分した方が良いでしょう。それと、もうひとつは、砂川堀沿いの池沼については、要検討になっていますが、開放水面は、田んぼそのものという考えもありますから、造成することもないと思います。それと田んぼは、昔、行われていた冬水田んぼ、夏水田んぼのように夏冬とも落水しない方法で行うことで、渡り鳥等が中継地として利用するが知られていますので、その方法で行った方が生物多様性のためには良いと思います。

- A 委員長：将来計画については、皆さんの発言を参考に今後進めていただきたいと思います。この問題については、次回以降に検討するということにしたいと思います。

- 評価委員会事務局 (G)：それでは、次の議事であります役員改選に移りたいと思います。この件で、A 委員長におかれましては、体調の不良により今回限りで委員長を退任したいという申し出を頂きました。お手本の資料の「B 地区自然環境評価委員会の設置要綱第 4 条、(役員)」という項目がありますが、評価委員会の委員長は、委員の互選によって選任する。そして第 5 条では、委員長は会議を整理し議長となる、という役割も記載されています。こうしたことから今回は、この場で新たに委員長を互選して頂ければと思います。

- A 委員長：今、事務局にご説明いただきましたが、委員長を辞退させて頂きたいと思っております。よろしく申し上げます。

- 評価委員会事務局 (G)：設置要綱で示されているように、第 4 条の中で「委員長は委員の互選によって選任する」ことになっておりますので、ご推薦等をお願いしたいと思います。

●A 委員長：まずは、私の申し出がよろしいか、皆さんに聞いて下さい。

○評価委員会事務局（G）：委員長退任の申し出につきましては、いかがでしょうか。

●委員一同：異議なし

○評価委員会事務局（G）：皆さん異論は無いということで、A 委員長には、これまで長期にわたってご指導いただき、本当に有難うございました。では、互選ということになります。いかがいたしましょうか。

●B 委員：A 先生、長い間ご苦勞様でした。推薦ということで、私は C 委員を推薦させて頂きます。狭山丘陵の保全については、早稲田大学が進出する以前から関わって昆虫調査をされてきて、保全の資料を作成されたということもありますし、現在、埼玉県の希少動物種の選定のための調査団の団長もされていて、県のレッドデータブック種の選定もされているということで、C 委員を推薦させて頂きます。

○評価委員会事務局（G）：今、B 委員の方から C 委員を委員長に推薦するご意見がありましたが、他の委員の先生方いかがでしょうか。

●D・E 委員：是非、お願いしたいと思います。

○評価委員会事務局（G）：それでは、委員の皆さまが、C 委員に委員長をお願いしたいということですが、C 先生いかがでしょうか。

●C 委員：是非にと言う意見であれば、自分なりに頑張りたいと思います。どうか宜しくお願いします。

○評価委員会事務局（G）：どうも有難うございました。次回の評価委員会から、C 委員に委員長として議事運営をお願い頂ければ幸いです。有難うございました。それともう一つ、K 委員が本日ご欠席ということと、この委員会の設置過程で地元環境保護団体である「狭山丘陵の環境を守る連絡会議」と早稲田大学との協議の中でこの委員会が発足したという背景がありますが、本日、その代表の L さんも出張のため、ご欠席されています。それで、A 委員長が今回ご退任の意向であるということを K 先生や L 代表にも事前にお話ししたところ、「A 委員長には大変お世話になり、体調的な問題でやむを得ない事情であることは了解する、ただし委員として体調がいいときにはご参加頂けるよう是非お願いして欲しい」という話がありました。A 先生には、今後も委員

として、ご都合の良い時には、ご参加頂けるということでご理解頂ければ幸いです、
A 先生いかがでしょうか。

●A 委員長:誤解が生じるとまずいと思いますので申し上げますが、委員長は行いませんが、委員として毎回、出席するという意味ではありません。特に、議題によって出席した方が良いということであれば、出席する場合もあるということで、ご理解して頂きたいと思います。

○評価委員会事務局 (G) : 今回の役員改選では、C 委員が次回から新任の委員長をお引き受け頂きましたのと、A 委員長につきましては今後も委員としてお残り頂き、必要なとき出席して頂けることとなりました。本日は、早稲田大学の教務部長が来られていますので、ここで M 教務部長から一言頂ければと思います。

●早稲田大学教務部部長 (M) : 早稲田大学教務部部長の M でございます。この B 地区評価委員会では 10 年以上にわたり、大変活発にご議論、また具体的な湿地再生保全のための方策をご提案していただき、本当に有難うございます。事務局の埼玉県生態系保護協会の皆様にも、本当に早稲田大学のためにいろいろとご配慮いただき有難うございます。A 先生には委員長として大変なご尽力を頂きまして誠に有難うございました。先生にはまだ教えて頂きたいことが多くありますが、ご体調面の問題ということで、今後は C 先生に是非ともお願いしたいと思います。A 先生には、是非ともご体調の良い時に、こちらの評価委員会にも出席して頂いて、今後ご指導いただければと思います。今後、C 先生にも引続きお力添えを頂くこととなりますが、どうかよろしくお願い致します。他の先生方におかれましては、早稲田大学も今後も湿地の再生・保全に関しましては全力で取組みますので、今後ともより一層のお力添えをお願いします。簡単ではございますが、どうも有難うございました。

●A 委員長 : これで、本日の議事は終了しますが、最後にオブザーバー参加されている埼玉県と所沢市の方で、ご出席の方、何かご意見がありますか。

●埼玉県自然環境課 (L) : 埼玉県自然環境課の L です。今までの経緯等々ご説明頂きまして、また今後進められる湿地再生のゾーニング案についても興味深く拝見させて頂きました。我々が管理している「みどりの森博物館」も近隣にありますので、今後のゾーニング案と埼玉県みどりの森博物館の方でもどのようなことができるのか、教えて頂ければと思っております。また、引き続き宜しくお願いします。

●所沢市みどり自然課 (O) : 所沢市役所みどり自然課の O と申します。本日はこのような

会議に出席させて頂きましてありがとうございます。前回は、Pがお話ししたと思いますが、狭山丘陵の水田、溜池、それを囲む樹林地を地元の方々、団体の方々、県、市で保全するという点で、維持・管理しています。共通の意見としては、田圃、池、周辺緑地の存続という点です。今、県の「みどりの森博物館」の話も出ましたが、早稲田大学の評価委員会のような長期間の調査データに基づき、実施、検証されていることは、非常に重要であると思いますので、こうした調査結果を参考とさせていただきます。所沢市としても皆さまが納得して頂ける保全作業を進めたいと思っています。今後とも宜しくお願いいたします。

●A 委員長：それでは、今日の委員会はこれで終了とさせていただきます。今日のご苦勞様でした。有難うございました。

○評価委員会事務局（G）：A 委員長、ありがとうございました。今回は、湿地の全体計画について委員の先生方にコメントを頂きました。次回の委員会は、夏季に所沢校地で行う予定ですが、その際には、今回のコメントを踏まえて更に具体的な内容をご議論頂けるようにしたいと思います。先ほども湿地の管理方針について改めて資料の提示がありましたが、平成14年に策定されてから丸10年が経過したということで、その間、A先生を始めとして、委員の皆様方に議論して頂き、湿地の保全・再生について、生物多様性の観点から評価を頂ける段階に至っているかと思います。更に、これまでの取り組みを踏まえて全体の湿地再生が進んで、今後の研究等も含めて早稲田大学がこれだけの環境対策を行っていることを全国に誇れるよう、次のステップに向けて委員の先生方のご指導を仰ぎながら進めることが課題であろうと思います。

以上をもちまして、「平成23年度第2回早稲田大学所沢校地B地区自然環境評価委員会」を終了致します。本日は、ありがとうございました。

以 上